

10 月ともなれば、夏の間あんなにいろいろ飛んでいたチョウも、種類も数も格段に少なくなり、あちこち歩き回ってみても出会うチャンスが大幅に減ってしまいます。まして今年の 10 月は、天候不順のため出歩くのもままならない日が続きました。その、数少ないチャンスに撮った Photo の中から選びましょう。



まず最初にご存じアオスジアゲハ。街中でも普通に見られる種で、普段なら載せたくはないのですが、今月はあまり珍しいチョウと出会わなかったため、ピンチヒッター、ならぬピンチ被写体として選びました。でも、よく見るとなかなか綺麗ですよ。吸蜜している植物はご存じヤブカラシです。この幼虫はクスノキの葉を食するので、都内の至る所にあるクスノキの並木のおかげで近所でも頻繁に見ることが出来ます。この写真は半蔵門線 SS ツアーの時に青山通りで撮ったものです。



続いてお見せするのはオオスカシバという蛾。スズメガの仲間ですが、蛾としては珍しく昼間に活動するので馴染みがあります。翅が透明なのも珍しいですよ。この蛾の幼虫の食草はクチナシ。いっぱい卵を産んで、おかげでクチナシの木が丸裸にされてしまうこともあるそうです。蜜を供給してるのはナデシコ科のセキチク。これまたなんとなく艶めかしい花ですよ。この写真は、5 回生の村上武駿氏が主宰した「歴史探訪てくてく隊」なるアルキの会に参加した時、浅草の桜橋あたりで撮りました。スズメガがちょっと見えにくいですが辛抱して下さい。



次の写真もてくてく隊の時のもので、午前中に探訪した回向院で見つけました。なんだか大きな実(?) になってる植物で、見たこともなく、面白そうなので撮って帰って調べたら、ガガイモ科のフウセントウワタだそうです。南アフリカ原産の輸入種で、この実が成熟するとガパッと割れて中から綿毛とタネが出て来るんだそう。横には花も咲いてたけれど、実から想像するよりはずっと上品な花だったよ。



最後はこの欄ご常連のカエル。10 月半ばに大学時代のクラスメートの集まりで北鎌倉の社寺を巡り歩いた時に見つけました。場所は有名な建長寺の境内。総門から法堂を通って奥の半僧坊へ行く途中の参道脇に佇んでました。カエルを見ると撮らずにおれないんですよ。

最近この建長寺の中に、ムシ好きで知られる養老孟司さんが提案し、建築家の隅研吾さんが設計した、「虫塚」なる供養碑が建てられたそうで、その実物も見てきました。かなり現代的でしたね。

さて、冬になると寒いし、ムシも花も少なくなるし、このエッセイ、続けられるかな？ 中身を変えるか、趣向を新たに作るかして、何とか続けたいと思っています。頑張ります。

ATGG へのお便りはこちらへどうぞ。

haradah@rapid.ocn.ne.jp

(2017 年 11 月 1 日 大手前丸亀 4 回生 原田浩 記)